

令和7年度（2025年度）宇津貫緑地自然環境調査結果

調査地

- ▶ 場所：宇津貫緑地
特別保存ゾーン
(八王子市七国)
- ▶ 面積：約10ha



調査項目・調査時期

調査項目	調査方法	時期
哺乳類	目撃法・フィールドサイン法	5/15、6/19、8/14-15、11/6-7、11/10
	無人撮影法	5/15-19、8/14-18、11/6-10
	バットディテクター法	5/16、6/19、11/6
	トラップ法	5/30-31、8/14-15、11/6-7
両生類・爬虫類	直接観察	5/15、7/10、11/6、11/10
鳥類	ルートセンサス法	5/1、6/19、9/25、1/8
	夜間任意踏査	5/16、6/19、1/8
昆虫類	直接観察	5/15、8/12-13、10/2-3
	ライトトラップ法	5/15-16、8/12-13、10/2-3
	ベイトトラップ法	5/15-16、8/12-13、10/2-3
	ホタル類調査	6/19
淡水魚類・水生生物	直接観察	6/19、11/18
植物	直接観察・コードラート調査	5/13、6/16、7/23、8/28、8/30、9/18

調査結果

▶ 確認種数

分類群	確認種	希少種	特定外来生物
哺乳類	7	0	1
両生類	1	1	0
爬虫類	4	4	0
鳥類	32	6	1
昆虫類	543	23	0
淡水魚類 水生生物	25	6	1
植物	514	34	0

※昆虫類と水生生物には一部重複あり
希少種は、環境省又は東京都レッドリスト掲載種（情報不足、留意種含む）

▶ 植生

- ・二次林であるコナラ群落が多く成立していました。
- ・谷戸部では、抽水植物群落を大部分を占め、一部、沈水・浮葉植物群落が見られました。



コナラ群落



沈水・浮葉植物群落

▶ 調査地の特徴

- ・調査地は主に二次林と湿地で構成されており、里地里山を代表する動植物の生息生育が確認されました。
- ・特に水辺とその周囲の開けた環境では、トンボやホタル、湿地環境を必要とする植物など、多くの希少種が確認されました。
- ・特定外来種では、アライグマやガビチョウなどが確認されました。



まとめ

- ・本調査により、宇津貫緑地に豊かな生物相が存在することが明らかになり、生物多様性に関するデータが蓄積されました。
- ・良好な里山環境を利用する種が多く確認され、開発から免れた生物の貴重な生息生育場所になっていると考えられます。
- ・宇津貫緑地で生物多様性が維持されていることは、周辺の緑地と生態的な連結性を高める観点からも、重要な役割を果たしていると考えられます。
- ・この環境は、市民団体などによる保全活動により維持されており、団体の活動が地域の生物多様性維持に大きく貢献していることがわかりました。
- ・本調査により得られた結果を、生物に配慮した維持管理などでの活用を進めることで、地域の生物多様性の保全や活用につながります。

